

④男女がともに活躍できる男女共同参画

家事、育児、仕事を男女が協力して担い、男性も女性も一人ひとりの能力や個性を發揮し、いきいきと活躍している。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 30代後半の男性。播磨地域の地方都市で妻、長男（8歳）、長女（4歳）、二男（1歳半）と暮らしている。
- 金融サービス会社を創業、経営しており、妻も共同経営者として同じ会社で働いている。二男が生まれてから1年間は、妻が育児休業を取得した。二男が1歳になったときに、私が入れ違いで育児休業に入り、半年が経過したところだ。

<育児休業取得>

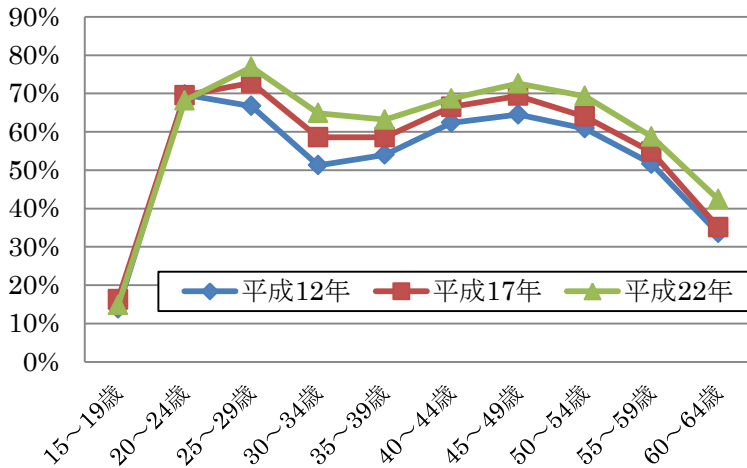
- 私の会社では、自分または配偶者が出産する社員に対し、育児休業に関する案内を通知し、どの時期に休暇取得を希望するかを報告してもらっている。父母合わせて3年間まで育児休業を取れるようにしているので、周囲に気兼ねなく、かつ本人の望むキャリア形成に沿う形で休暇が取れるよう、早めに職場内で調整するためだ。
- 20代で妻や同世代の仲間と会社を設立したが、会社の経営が軌道に乗った頃、子どもが生まれる社員が相次いだ。育児と仕事が両立できるよう、社員同士がサポートし合う仕組みをつくり、妻や私も長男の出産、子育ての時から育児休業を取得した。
- 社員がスムーズに復職できるよう、育児と仕事を両立しながら活躍している社員を、相談相手となるメンターに位置づけており、このメンターを対象に、どのようなサポートが必要かを学ぶ研修を行っている。社員が休暇中に会社の動きを把握できるようにするための情報提供も行っている。
- また、職場の方針として会議や打ち合わせは極力短くしている。

<家事・育児・仕事>

- 私自身は、子どもが生まれる前から、家事は夫婦で分担していたこともあり、炊事や洗濯、掃除は妻よりも上手だと自負している。
- 育児休業が毎日続く中では、3人の子どもの世話を疲れてしまうこともあるが、妻が帰宅後や休日には家事や育児を代わってくれるので、一息つける。妻は、「私の育児休業中は、あなたも交代してくれてたのだから、当たり前でしょ」と言っている。
- 育児休業中は、子どもたちと一緒に地域での行事に顔を出す機会も多く、いろいろな世代の人とも知り合いになり、世界が広がった。
- 二男が2歳になるまでは育児休業を続けようと思っていたが、長女と同じ保育所に空きが出たので、妻と話し合い、私も来月から職場復帰することにした。仕事と育児の両立は、時間の使い方と妻との協力がポイントだ。

現状や課題

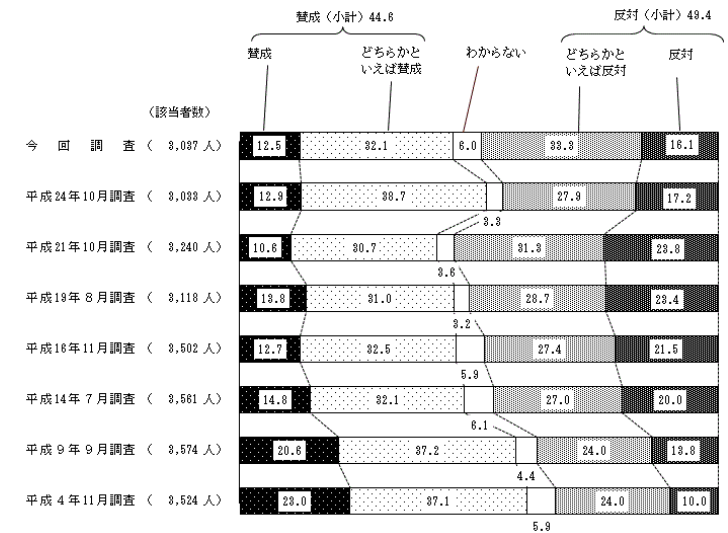
【女性の年齢階層別労働力率の推移（県）】



（出典：総務省統計局「労働力調査」を基に県ビジョン課作成）

【性別役割分担意識（国）】

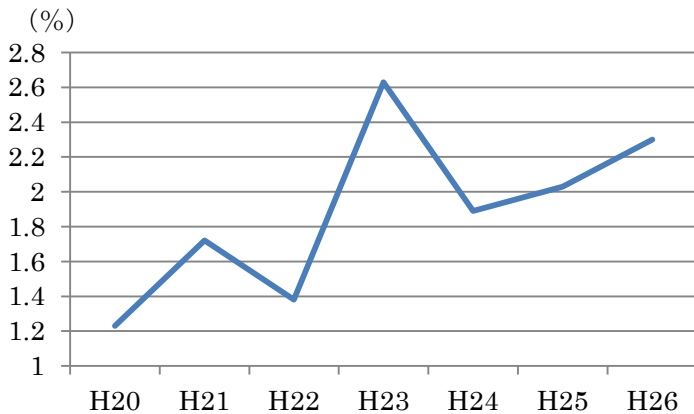
○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



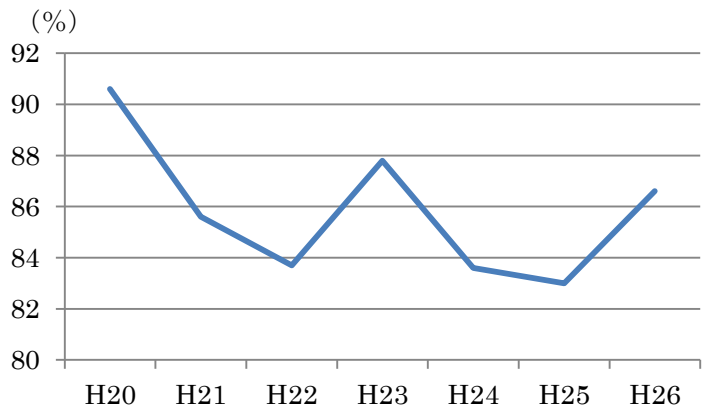
（出典：内閣府「平成26年度女性の活躍推進に関する世論調査」）

【育児休業取得率推移（国）】

○男性



○女性



（出典：厚生労働省「雇用均等基本調査」を基に県ビジョン課作成）

見えてきた兆し

【イクボス】



※イクボス養成塾の様子。「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のこと。男性の育児参加・育児休業取得を支援するため、「男性従業員」だけでなく「事業主・上司」にも意識改革を働きかけている。

（出典：内閣府「男女共同参画白書平成26年版」）

【専門家等の意見】

- フランスや北欧のように社会システム全体や価値観を抜本的に変えなければ出生率は向上しない。
- 出産・育児による就業中断をなくせば、女性は働き続けられる。